

小説

『馬鹿化かし』

藍銅 ツバメ 著

首斬りを生業とする山田朝右衛門。大切な人を次々に失い、一人孤独な日々を送っていた。ある日、朝右衛門は不老不死の不思議な罪人の処刑に失敗する。逃げた罪人は服部半蔵を名乗り、朝右衛門が死に取り憑かれていると言うが……。史実と怪異が入り乱れる幕末妖怪ファンタジー。

趣味

実用

『日本の世界遺産をめぐる旅』

朝日新聞出版

日本にある世界遺産の全 26 遺産を、周辺マップやガイド、歴史も併せて徹底解説。まさに、全ての遺産をめぐるために作られた、実際に旅した時に役立つこと間違いなしの一冊です。美しい写真やイラストも豊富で、旅に出たいと思わずにはいられません。さて何処からめぐりますか？

小説

『記憶の対位法』

高田 大介 著

フランス・リモージュで事件記者をするジャンゴは、亡き祖父の遺品整理をするため、とある寒村を訪れた。戦後、なぜ祖父は対独協力者として断罪されたのか……。遺された古書や小箱の秘密とは……。記憶・戦争・差別・宗教・思想・音楽、全てが絡み合う歴史の迷宮へと足を踏み入れる。

趣味

実用

『これネコそれネコ？』

沖 昌之 著

正統派の可愛さだけじゃない、可笑しさにもストーリー性にも溢れた猫たちの姿。なんでそんな恰好になってるの？ と前後の出来事を予想したり、こうゆう顔する時あるある！ と共感したり……。思わず顔がほころんでくる、二度見必至のユニークな瞬間が詰まった写真集です。

小説

『アカシアの朝』

櫻木 みわ 著

K-POP アイドルを目指す陽奈は、練習生となりソウルにやって来た。多国籍の仲間と共に活動する中で、少しずつ日韓の歴史を学んでゆく陽奈。自国の歴史を認識し直す韓国人のソユン。ヘイトスピーチ・領土問題・南北朝鮮・戦争・植民地など、日韓が抱える問題のすべてを描いた社会派小説。

趣味

実用

『焚き火メシの本』

松倉 広平 著

昨今のアウトドアブームの中で、焚き火を楽しむ人も増えています。この本は炭火ではなく焚き火での料理を楽しむための本。しかも、熾火（おきび）になるのを待たず、炎の出ている状態でワイルドに料理して、焚き火も料理も同時に楽しもうという斬新でシンプルなレシピ集です。

小説

『女と男、そして殺し屋』

石持 浅海 著

安心安全のシステムで副業として殺し屋をしている男・富澤。依頼の度に標的の奇妙な行動が気になり、その裏側をじっくり推理してしまう。そんな「殺し屋シリーズ」の第 3 弾。前作からの商売敵である女殺し屋・鴻池も健在で、それぞれに舞い込む謎めいた依頼の先に、ついに 2 人が……。

趣味

実用

『農作物のひみつ』

日本作物学会 編

コーラの原料はなに？ 緑茶・紅茶・ウーロン茶の違いは？ 砂糖の種類の違いはなに？ など、農作物の意外に知られていない生態や、疑問に思うこと、考えてもみなかったこと、社会問題など、様々な角度から分かりやすく解説。価格高騰が続くコメについても、おもしろ雑学が盛りだくさん。

小説

『こうしてぼくはスパイになった』

デボラ・ホプキンソン 著

バーティは第二次世界大戦中のロンドンで民間防衛隊の伝令係をする少年。アメリカ人の少女エレノアが落とした、暗号で書かれたノートを拾います。それは失踪中の諜報員ヴィオレットのものだと知り、暗号解読に挑みますが……。少年少女が活躍する謎解きミステリ。オレゴン図書賞受賞作。

趣味

実用

『日本一短い手紙「願い」』

丸岡文化財団 編

「一筆啓上賞」は福井県坂井市が創設した賞で、徳川家康の家臣・本多作左衛門重次が妻に送った短い手紙にちなんだものです。令和 6 年度は「願い」をテーマに、3 万 9164 通の手紙形式の作品の中から、入賞作品を中心に収録しています。優しい願いや復興への願いに、胸を打たれる作品集です。